

## 第12回 練馬区区民協働推進会議 議事概要

### 《日時・場所》

- 1 日時 平成25年3月25日(月)午後6時～午後8時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎5階 庁議室

### 《次第》

- 1 開会
- 2 案件
  - (1) 平成24年度練馬区協働事業提案制度(平成25年度事業実施分)事業実施状況について
  - (2) 平成23年度練馬区協働事業提案制度(平成24年度事業実施分)の事業終了時評価および総合評価の方法等について
  - (3) その他

### 《出席者》

江村健二委員、尾崎恭司委員、草間俊行委員、斉藤真和子委員、佐藤修男委員、平修久委員、瀧澤利行委員、長澤英男委員、森本陽子委員、山口和海委員、吉田壯二委員、犬塚隆委員(区民生活事業本部長)、中村哲明委員(地域文化部長)  
(事務局)地域振興課職員 4名  
(傍聴者)なし

## 1 開会

座長

- ・第12回練馬区区民協働推進会議を開催する。

## 2 案件

### (1) 平成24年度練馬区協働事業提案制度(平成25年度事業実施分)事業実施状況について

座長

- ・案件の(1)「平成24年度練馬区協働事業提案制度(平成25年度事業実施分)事業実施状況について」事務局から説明をお願いする。

事務局

- 資料1の説明

座長

- ・協働事業提案制度の実施状況については、事務局からの説明のとおりである。
- ・協働事業提案制度の審査結果について、改めて審査委員長より報告していただく。

審査委員長

- ・6事業の提案があり、審査の結果、継続事業も含めて5事業の採択となった。不採択となった1事業については、地域性だけでなく、普遍的な地域づくりという観点から取り組んでいただきたいということから不採択となった。

座長

- ・審査委員となっていない委員の方も、この制度で実施する事業については、評価を行うことになる。よって、本会議として、事業内容の情報を共有するため、本日、確認作業を行っている。事業内容について、質問や確認したいことはあるか。

A委員

- ・区事業関係課の役割の中で「助言」という表現がある。「災害時にも平時にも使えるアイデア満載サバイバルレシピ集の作成」事業については、区が協働で実施を予定している事業への提案である。よって、「助言」という表現を使うと、当事者意識が弱まる感じがある。「事業の実施に関する必要な補助・助言および調整」ではなく、「事業の実施に関する必要な補助・調整」あるいは「検討」という表現にしてはどうか。
- ・協働事業には役割分担も重要であるが、一緒に実施するとういのが区民の方の意識である。他の事業においても、「助言」という表現がある。この点について検討をお願いする。

座長

- ・他に質問等はあるか。

特になし

座長

- ・協働事業提案制度、評価制度は、実施をしながら改善を図っていくこととしている。

- ・今回の審査に携わった委員の方から、審査を終えた感想や、今後に向けた改善点等があれば伺いたい。

K委員

- ・初めての経験であったため、自分の中でどのような基準で審査をして良いか戸惑った。
- ・一生懸命に取り組んでいるが、協働という観点からは難しいという提案もあり、前向きに進めるべきか、お断りしようか迷ったが、自分自身の中での括りで、判断をさせていただいた。大変勉強になり、今後も、こうした審査は心してやっていかなければならないと感じた。

座長

- ・他の委員はいかがか。

C委員

- ・K委員と同様に、自分の中での基準の点数をどこに置くか悩んだ。私自身は、非常に高い点数を基準とした。他の委員の審査結果を見ると、3点ぐらいを基準にしている委員もいた。委員それぞれが自分自身の基準を見出すのに苦労したと思う。
- ・また、公開プレゼンテーションでは、各団体とも一生懸命に説明をしていた。それを見て、低い点数をつけなければならないということが、非常に辛かった。できれば、すべての提案事業を実施してもらいたいと思った。
- ・本会議として今後、事業の評価を行っていくことになる。審査に関わった私たちは、評価がしやすいと思うが、関わっていない方たちが、評価を行っていくのは難しいのではないかと感じている。できれば、全委員が審査に加わることが理想だと思う。
- ・公開プレゼンテーションでは、審査委員になっていない委員も傍聴をされていた。今後、評価をしていくという観点から、傍聴されていた委員に感想等を伺いたい。

座長

- ・傍聴されていた委員から感想等を伺う。

H委員

- ・来年度は審査を行う立場になる。そのため、評価のことを考えてではなく、審査委員の皆さんが、どのような視点で質疑するのかを見るために傍聴した。色々な地域で様々な団体がそれぞれの課題に対して一生懸命考えているという部分では、C委員と同様に、すべての事業をそれぞれに頑張ってもらえれば良いと思った。ただ、傍聴することにより、協働事業の審査をする際に、どのような質問や審査の視点をしなければならぬのかを学ぶことができた。

座長

- ・全審査委員が、同じ視点、同じ基準で審査を行うことは困難である。各委員がそれぞれの立場や経験などを活かして考え、審査を行い、その結果を総合して評価することで、適切な結果を導き出せていると考えている。
- ・審査に携わった他の委員はいかがか。

#### D委員

- ・私も最初は戸惑った。協働事業提案制度に応募される方は、前向きな方ばかりで胸を打たれるものがあった。25年度には5事業が実施されるが、最後まで事業を遂行し、効果があったという結果になることを願っている。

#### I委員

- ・こうした審査は初めてであったが、他の勉強会やまちづくりに関係する会などに出席をしていると、このような行政との協働には、比較的大学生などの若い方が積極的にテーマを掲げて、力強いプレゼンテーションを行うなど、そうした動きが見えてくる。その観点からすると、数多くの提案、若い年代からの提案も欲しいと思った。そうした意味では、本会議や区の担当者も含めて、どのように底上げをしていくのかを検討しなければならない。今の時代、若い方の意欲とやる気などだけでは上手くいかない部分を、企業人だった方がサポートしたり、行政の担当窓口の若い方も含めて喧々諤々やったりするなど、敷居を超えた協働をこうした事業をきっかけに、広げていく努力をしなければならないと感じた。
- ・評価に関しては、私自身、厳しくしすぎたと思っている。数少ない提案をされた方に対しては、二重丸、三重丸の評価をしていかないと、来年度に提案が少なくなると感じた。

#### 座長

- ・全審査委員が温和な評価を行っても、審査への信頼が損なわれる恐れがある。委員ごとに違った視点で評価をしていただくことが重要である。

#### A委員

- ・提案のあった事業は、それぞれ素晴らしかった。不採択となった事業についても、事業そのものは素晴らしかったが、協働事業提案制度のフレームにはまらなかったということである。その点では、ある程度厳しい目も必要だと思う。
- ・また、提案された方は、ある程度自分たちの想いで企画をしているところがある。第三者の目で内容を確認し、企画書のまま認める場合もあれば、付帯意見を付けて採択する場合もある。今回も、各委員からの意見などが反映され、修正された部分もあったので、良かったと思う。

#### B委員

- ・厳しく評価した委員、甘く評価した委員、様々であったが、点数を平均すると、ほとんどの提案事業が、実施可能な範囲に入るという結果になり安心した。
- ・他の自治体でも同様であるが、提案した団体だけが、事業に対してのプレゼンテーションを実施している。協働という観点からすると、区の事業関係課の考えもプレゼンテーションの際に聞くことができれば、提案団体と区の事業関係課との間柄も感じることができ、審査委員としても、審査の視点の一つとして持つことができる。やり方としては色々あると思うが、区の事業関係課の意見を聞けるような仕組みもあれば良い。
- ・また、I委員の意見にあった若い年代からの提案であるが、金額が数十万単位であって、

ある程度年度進行をすること、その結果として成果が求められる現制度では、使い勝手が悪く、提案しづらいのではないかと思う。少額であっても、プランニングやアイデアを出すことで将来につなげられるようなものも、これからの協働の中では必要なのかもしれないと感じた。

座長

- ・他に意見等はあるか。
- 特になし
- ・来年度の審査の体制等に関して、先ほどの意見にもあった本会議の委員全員で行うかどうかは、今後、検討を行うこととする。

## (2) 平成 23 年度練馬区協働事業提案制度（平成 24 年度事業実施分）の事業終了時評価および総合評価の方法等について

座長

- ・案件の(2)「平成 23 年度練馬区協働事業提案制度（平成 24 年度事業実施分）の事業終了時評価および総合評価の方法等について」事務局より説明をお願いします。

事務局

- 資料 2 を説明

座長

- ・質問、意見等はあるか。

C 委員

- ・審査の際に、審査委員が提案団体の関係者などであった場合、審査を回避するというルールがあった。総合評価の場合も同様か。

事務局

- ・審査とは違い、評価結果によって事業の実施の可否が決まるわけではない。よって、全委員に評価に参加をしていただくことになる。

座長

- ・他に質問、意見等はあるか。

I 委員

- ・審査に関しては、この会議の委員の選抜であった。評価に関しては、全委員で実施するのか。

事務局

- ・その通りである。ただし、前回の会議で、審査に携わっていない委員が評価を行うことについての議論があった。次年度以降については、審査委員会を設置する前までに検討を行う予定である。

座長

- ・今回、委員に評価していただく事業は、平成 24 年度に実施した事業である。その審査に

関わった委員は非常に限られている。

- ・事業内容全体が把握できる書類を、各委員に事前にお渡ししてもらいたい。

事務局

- ・事業の企画書も合わせて、できるだけ詳しい資料をお渡しする。

座長

- ・他に意見等はあるか。

B委員

- ・公開プレゼンテーションは、区報とホームページでの周知となるのか。NPO等の所在が分かっているのであれば、葉書等で周知をしたほうが良い。

事務局

- ・ねりまNPOニュースを毎月25日に発行している。この機関紙は、毎回、区内のNPOに郵送している。この機関紙でも周知を行っている。

座長

- ・私たちが評価に使うのは総合評価シートである。設問は4つになっているが、これ以外の視点もあると思う。そうした場合には、一番下のコメント欄に記載をしていただく。

- ・公開プレゼンテーションで各事業の報告を受けた後、各委員の評価シートを持ち寄り、各委員の意見を交換しながら、本会議の評価としてまとめていく。

- ・案件の(2)について、他に意見等はあるか。

- 特になし

### (3) その他

座長

- ・その他で、「(仮称)区民協働交流センターについて」の資料が出されている。事務局より説明をお願いします。

事務局

- ・(仮称)区民協働交流センターのハード部分について、整備内容が固まったので、報告をする。

- 資料3を説明

座長

- ・質問や意見等はあるか。

B委員

- ・(仮称)区民協働交流センターと同じフロアにある区民交流ホールは、どのような施設で、何人ぐらい収容できるのか。

- ・また、(仮称)区民協働交流センターの多目的室AとBは比較的規模が小さい。同じフロアの研修室と有機的に連携できれば、様々な事業の展開が期待できる。

事務局

- ・区民交流ホールは、レセプション等を開催できる平土間式のホールである。500人程度まで収容できる予定である。
- ・また、研修室については、産業振興のために建設するものであるが、各施設とも貸施設である。よって、施設の本来の目的で利用するかどうかで申込期間の優劣はあるが、空いていればNPO等でも利用が可能である。そうした意味では、事業ごとに様々な選択肢があると考えている。

座長

- ・他に意見等はあるか。

D委員

- ・センターの運営については、新たに運営を行う法人などを立ち上げるのか。
- ・また、多目的室について、地域のサークルなどでも利用できるのか。
- ・さらに、センターと本会議との関係はどのようになるのか。

事務局

- ・センターの運営については、区が直接実施し、事業ごとに専門性を持った団体などに委託をしていきたいと考えている。
- ・また、多目的室については、趣味のサークルや生涯学習的な団体でも利用していただける。ただし、今後、整理が必要であるが、設置の趣旨から考えると、不特定多数に対して公益的な活動を行っている団体の利用を優先すべきと考えている
- ・つぎに、センターと本会議との関係であるが、このセンターは協働を推進するための拠点であるため、このセンターで実施する事業については、本会議より、ご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。

座長

- ・他に意見等はあるか。

I委員

- ・新しい建物をつくったからといって、協働や交流が進むものではない。特に協働というのは、新しいようではなかなか馴染んでいない。そうした意味では、協働の学習の場として、若い方たちに協働の意識を啓蒙し、層を厚くしながら、プロジェクトができ、提案が出てくるような仕組みをつくって欲しい。今後、(仮称)ねりま区民大学をつくる計画がある。こうした学びの場を通しながら、上から協働を進めるのではなく、下から協働の芽が出てくるような仕組み、小さい頃から公共の意識を植え付けるような仕組みをつくり、それを発展させて地域の課題解決にあたるプロジェクトが増えていくような方法、その中に区の若い職員も入って一緒に議論ができるような場をつくって欲しい。

事務局

- ・(仮称)ねりま区民大学については、人づくりプロジェクトとして、文化・生涯学習課が中心となって、どのようなカリキュラムを組んでいくか検討中である。その中身が出てくると、この施設との連携についても出てくる。また、ハードの中で、どのようなソ

フトの事業を展開していくかについては、I委員の発言のような内容の意見をいただきながら進めていきたいと考えている。

座長

- ・本日は、ハード部分についての報告である。ソフトの部分については次回以降ということになる。
- ・事務局として、次回の会議はいつ頃開催する予定なのか。また、本会議として、何回程度検討する機会があるのか。

事務局

- ・次回の開催については、7月を予定している。その時に、どのような機能でどのような事業を行っていくかをお示しする。ソフトの部分については、その際に意見をいただきたいと考えている。更に、7月にいただいた意見を踏まえ、庁内で検討したうえで、9月ぐらいに再度本会議にお示しをしたいと考えている。
- ・来年度の予算に反映させるものとしては、9月ぐらいまでに固める必要はあるが、事業は、継続的に実施していくものであるため、予算の範囲内で実施できるものや、予算を必要としないものについては、その都度ご意見をいただければと考えている。
- ・また、来年度に実現できないものでも、次年度に向けて、ご意見をいただいきたいと考えている。

座長

- ・ソフトの部分については、7月と9月に議論を行うこととする。
- ・他に意見等はあるか。
- 特になし

座長

- ・その他、連絡事項等はあるか。

事務局

- ・前回の本会議で議論があった協働事業の視察について、この間、委員の皆さんが参加できる事業として、外国人区民と日本人区民の相互理解のための交流事業が2事業あったため、その都度、各委員に案内を行った。平成25年度に実施する事業についても、参加できる事業については、案内をさせていただく。
- ・参加の際は、事務局を通じて、お申込みをいただくようお願いする。

C委員

- ・案内をもらって1つの事業に参加した。参加することによって、事業の内容が良くわかった。今回は、外国の方との交流ということで、言葉の壁とかもあったが、スポーツと一緒にいることによって、時間が経つにつれて、交流が深まっていくということが実感できた。
- ・平成25年度の協働事業についても、できる限り参加していきたい。



Ｊ委員

- ・私も１つの事業に参加した。様々な国籍の方と話ができて楽しかった。その中で、外国の方は、集合時間から数十分経ってから集まってきた方が多く、あまり時間を気にしないということがわかった。時間をしっかり守るのが日本人の特徴であることに気付かされた。
- ・スタッフは若い方が多く、みんな一生懸命やっていることが伝わってきた。気持ちの良い時間を過ごした。
- ・ただ、参加者が少ないのが残念であった。もっと集まる工夫があれば良かったと感じた。

座長

- ・総合評価は、今後の取り組みへの期待や、取り組む際の工夫も含めて、各委員の意見を伺いながら、まとめていきたいと考えている。
- ・また、平成 25 年度の事業においても、都合が合う事業については、各委員の参加をお願いする。
- ・その他、意見等はあるか。

- 特になし

座長

- ・以上で、第 12 回練馬区区民協働推進会議を終了する。